

特 集 II

地域医療と病診連携

黒 田 泰 弘 (徳島大学小児科)  
三 木 龍 昭 (徳島県医師会)

はじめに

今、保健、医療、福祉を取り巻く環境は大きく変わり一つの診療所、一つの中小病院だけでは患者に対する医療サービスを完結することが難しい時代となりました。その中で良質な医療を提供して行くためには、それぞれの施設が機能分担を図り医療連携と情報ネットワークを形成して医療提供体制の効率化を進めなければなりません。

そこで徳島県医師会では鈴江会長の就任を期に徳島医学会の在り方委員会（馬原文彦、齋藤晴比古常任理事を中心として）をつくり徳大医学部長加藤逸夫先生、徳大

附属病院長青野敏博先生をはじめ大学医学部の先生方のご理解とご協力により徳島医学会の門戸を開いて頂いて、第214回よりこの会（徳島医学会）を地域医療の充実強化推進のための情報交換の場として、研究の場として、あるいは交流の場として、利用すべく位置づけられています。

特集Ⅰ、Ⅱは、第214回徳島医学会（平成9年2月2日）“病診連携の展開”および第215回徳島医学会（平成9年8月3日）“地域医療と病診連携”で発表していただいた要旨である。

病診連携の展開  
－ 特定機能病院の立場から －

青 野 敏 博  
徳島大学医学部附属病院長

平成9年2月2日に第214回徳島医学会が開催されたが、その中で「病診連携の展開」をテーマとするセッションが持たれた。私は病院長として「特定機能病院の立場から」と題して講演をする機会を得たので、その要旨を紹介したい。

1. 医療法の改正と医療施設の体系化

平成4年4月に医療法が改正され、病院と診療所の機能分担が明確化され、高度医療を専門的に担う特定機能病院が新設された（図1）。一般の患者は診療所を受診し、一般病床に入院する。長期入院が必要な患者は療養型病床群で治療を受けることになる。このように患者の病状に応じて医療施設で効果的な医療が受けられるよう

な枠組みが作られる。

2. 特定機能病院とは

当院は平成6年8月から特定機能病院に指定されたが、

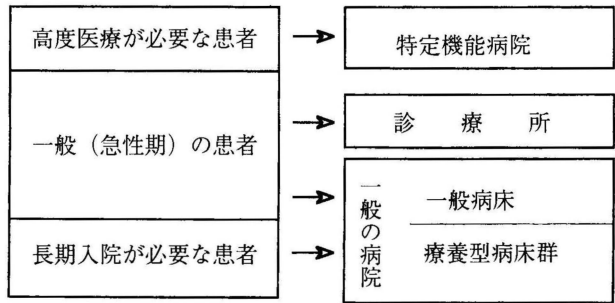


図1 医療施設の体系化と患者の流れ